2011, 12, 20

直場

3-2118

●編集 / 発行 公益社団法人 **食品容器環境美化協会** 〒108-0023 東京都港区芝浦 2-15-16 田町 K·Sビル6 階 電話 03-5439-5121 ホームページ http://www.kankyobika.or.jp

「アダプト・プログラム・シンポジウム 2011」開催される。 ~「新たな地域の連携・連帯に向けて」~

11月21日(月)当協会主催のアダプト・プログラム・シンポジウムが東京・神田の「ベルサール神田」で開催されました。

1999年から毎年開催されてきた本シンポジウムは今年で第13回を迎え、今回は「新たな地域の連携・連帯に向けて」と課題を設定して、基調講演、先進事例紹介、パネルディスカッションが行われました。

当日は地方自治体、市民団体等アダプト・プログラムに関心を持つ方々約130名が参加し、貴重な意見交換が行われ、有意義な情報交流の催しとなりました。

■ 基調講演「きれいなまちづくりのために私たちが出来ること」

基調講演は、本年度当協会のアドバイザリー・フェローに就任していただいているフリーキャスターでテレビ・ラジオで活躍中の根本美緒さん。「きれいなまちづくりのために私たちに出来ること」という題でお話しいただきました。

根本さんは、「みのもんたの朝ズバッ!」で長くお天気コーナーを担当し、その明るさと柔らかな口調で全国的な人気を博した方です。この日もその明るさを十分に発揮し、会場全体を楽しい雰囲気に包んでくれました。

根本さんは子育て中のおかあさま、その立場からの アダプト・プログラムとのうれしい遭遇を具体的に実 感をもって語ってくれました。

子育て中の母親にとって緑豊かな、特に遊べる芝生のある公園がいかに貴重であるか、そしてその公園が適切に管理されていることがいかにありがたいことであるか、そんな中で実際に公園を利用していて、根本さんはアダプト・プログラムを発見したのでした。

その公園は芝生に覆われ、夏には頻繁な水撒きをしなければならないなど繊細な芝管理が必要な公園であり、またバジル、ローズマリー、ミントなどのハーブ栽培も行われており、地域の人々の憩いの場でした。

そこで根本さんは、アダプト・プログラムとともに、



地域のリーダーたる 町会長さんがいかに 献身的に地域の人々 のために活躍してい るのかに気づいたの でした。

近くにはあまり人 気のない、活用され ていない公園もある とのことで、その違いが出てくる原因にはアダプト・プログラムのリーダーや参加者の「思い」の差があるのではないか、それが公園の管理水準の差をもたらせているのではないかとの指摘もありました。

子どもが出来るまでは公園の維持管理がアダプト・プログラムによって担われていることに気がつかなかったと根本さんは率直に語り、アダプト・プログラムの存在をみんなに伝え、アダプト・プログラムの活動に利用者としてのアイデアを提供していくという関わり方が自分にも出来るのではないかと思っているとのことでした。

そして、都会の暮らしでは不足になりがちな地域とのコミュニケーション、近所付き合い、楽しいおしゃべりの機会をアダプト・プログラムは提供してくれる、子育て中のおかあさんたち、お年寄りの方々にうまく伝えれば、参加したいというニーズはいくらでもあるのではないか、活動を広げる余地はまだまだ十分にあるのではないか、と励ましの言葉を我々に残してくれました。

フリーキャスター・気象予報士 **根本 美緒 氏**

【プロフィール】

東京都生まれ。慶應義塾大学在学中にリサイクルの経済学について研究。卒業後、東北放送アナウンサーを務める。05年からフリーキャスターとして活動を始め、「みのもんたの朝ズバッ!」

2005年3月から2010年3月)での柔らかな口調で解説するお天気コーナーは、老若男女問わず分かりやすいと好評であった。現在は、TBS系「週刊健康カレンダーカラダのキモチ」、「ごごネタ!クックTV」、CX 「知りたがり!」などに出演中。

また、「3 R推進マイスター」(環境省主催)や、子どもの健康と環境に関する全国調査 「エコチル調査」サポーター、「チャレンジ25キャンペーン応援団」、「地球いきもの応援団」など環境問題に関連した活動においても広く活躍している。

食環協環境美化アドバイザリーフェロー:公益社団法人化を契機に、協会が長年にわたり取組んできた飲料容器の散乱防止活動や環境美化教育支援活動を一層推進し、国民一人ひとりの環境美化への意識の高揚を図るために設けたもの。2011年度は根本美緒氏に委嘱。

Ⅲ アダプト・プログラムの先進事例紹介

行政の立場から「香川県『香川さわやかロード』」について同県土木部道路課田辺謙二氏、「神奈川県藤沢市『美化ネットふじさわ』」について同市自治部市民自治推進課の利根一馬氏、NPO法人として「NPO法人スマイルスタイルの活動」について大阪から代

表理事の塩山諒氏、企業の立場から「三国コカ・コーラボトリング株式会社のアダプト・プログラム活動」について同社広報環境部長・後藤有功氏、各氏からそれぞれのお立場からの取組状況を報告していただきました。

活動継続の励みとなる機会の提供を

最近「うどん県」として売り出し中の香川県から、県管理道路を対象とする「香川さわやかロード事業」の紹介がありました。

県内全市町で144の団体が参加し、構成員は約6,700人に上り、約163kmの道路が活動対象となっているそうです。

中には活動年数が46年という、制度発足前からの長期活動実績を誇る団体、活動対象距離が10kmに及ぶ団体もあるそうです。

平成21年度に参加団体を増やすため、制度を大幅に 見直し、認定要件の緩和(500m以上の区間を年4回 以上→100m以上の区間を年2回以上)、活動団体名 表示板への企業名表示の許容、 活動団体との意見交換会を県下 全土木事務所で開催等々の措置 をとったとのことでした。

また、活動団体の意欲向上、 情報提供のため、情報誌「さわ やか通信」の発行、現地におけ る緑化作業講習会の開催など積 田辺謙二氏

極的な推進活動が展開されています。



極的な推進估動が展開されています。 活動団体の構成員の高齢化の中で活動の継続を図っていく必要があり、活動継続の励みとなる機会の提供を考えていくことが最大の課題とのことでした。

市民のより参加しやすい制度に向けて

神奈川県藤沢市の「美化ネットふじさわ」は、道路 管理部局が制度を担当している香川県とは違って、市 民自治推進課という市民活動推進部局が担当している のが特徴です。

「頑張る市民の方々に御協力いただき、協働で街をきれいにしていくのが制度の理念」ということで、最近よく聞かれるようになってきた「新しい公共」を十分に意識した制度と感じられました。

市内の登録団体は64、道路のほか広場、公園、庁舎 敷地などが活動対象になっています。

制度の理念に応じて、制度参加の要件は3人以上で、

1世帯の家族でもよい、制度の 目標として活動面積、ごみの収 集量などの数値化はしない等市 民の自発性をあくまでも尊重し ていこうという精神で制度設計 がなされているようです。

さらに、より参加しやすい制度の改善を図るとともに、地利根-馬氏域の大学サークルへの呼びかけ、アダプト・プログラムの研修会の開催、また市の類似制度との整合性確保、一体的運用に取り組んでいきたいとのことでした。



(参考データ)

導入プログラム数の推移 600 98年:四国で始まり 500 500 430 460 01年:九州〜北海道まで、全国に普及 310 344 380 270 400 11年:11年年末の推定件数500 300 210 200 全都道府県内で導入済 160 ・人口2万人以上の自治体の **√**104 100 4割強が導入 98年 99年 00年 01年 02年 03年 04年 05年 06年 07年 08年 09年 10年 11年



社会の問題を「自分ごと」にする ライフスタイルの創出

「NPO法人スマイルスタイル」はアダプト・プログラム活動団体ということではありません。「社会的課題解決に向けたクリエイトに挑戦し続ける」という使命感のもと、その視野は環境美化活動にとどまらず、ホームレス、不登校、引きこもり、ドラッグ、エイズ、生活保護等広範な社会問題に広がっています。

社会問題への無関心という状態から問題を「自分ごと」にするというライフスタイルへの転換、問題に対して自然に体が動いていくという意識の醸成、そのための場を創出していこうという明確な目的意識を、若きリーダー塩山氏がもっており、「新しい公共」という概念が予想しているレベルをはるかに超えた「新しい公共」ともいえる活動です。

また、活動の企画にあたっては、例えば環境美化活動でも「オールナイトごみひろい」「無人島でごみひろい」など人々の参加意欲を刺激する「ひとひねり」が入っていて、幅広く活動



塩山 諒氏

参加者を集めるのに成功しており、このような企画力 が企業からも行政からも評価され、企画が採用されて います。

アダプト・プログラムそのものではない活動ですが、 アダプト・プログラムの制度設計、活動参加の呼びか けを考えるうえで、ヒントになる要素が豊富に含まれ ている活動の報告でした。

企業責任を超えて地域に向かう

三国コカ・コーラボトリング(株)は、日本のコカ・コーラシステムの中で埼玉、群馬、新潟の3県を営業エリアとする、従業員約3,000人の飲料メーカー。地域内の40に及ぶ営業拠点において、様々な社会貢献活動、地域社会との共生活動を展開しています。その中で、容器を使って飲料を供給している企業としての責任意識から地域清掃活動も実施しており、本社のある埼玉県では、アダプト・プログラム「彩の国ロードサポート制度」に参加し、6か所の道路での活動が県の認定を受けているとのことです。

会社としての活動であるため、社員の参加意欲の向 上、リーダーの人事異動に伴う活動レベルの変化等へ の対応が課題であるとのこと で、各種媒体を使っての活動事 例紹介による活動の顕彰、参加 する社員間の仲間意識の醸成な どによってまち美化活動を積極 的に推進していこうと考えてい るとのことでした。



後藤有功 氏

活動の中では、異業種他社、地域NPO、地元観光協会との協働もあり、企業としての責任意識にとどまらない地域社会への前向きな貢献姿勢が印象的でした。

一新した食品容器環境美化協会のホームページを紹介します 公益社団法人 食品容器環境美化協会

公益社団法人 食品容器環境美化協会(食環協)は、様々な環境美化推進の活動情報をホームページで発信していますが、昨年ホームページを一新し、まち美化 アダプト・プログラムや環境学習支援、散乱防止啓発などの取り組みをわかりやすくご紹介しています。

アダプト・プログラムについては、「アダプト・プログラムとは」「全国の普及状況」などの基本情報や、「シンポジウム」「活動事例」などでユニークな事例、最新情報をお届けしています。

小学生が楽しみながら環境について学べる「まち美化キッズ」を、先生や 有識者のご意見をもとに本年4月リニューアルしました。クイズ挑戦コーナーも設けましたので、多くの小学生が利用しています。

そのほか「環境美化教育優良校等表彰」や、先生向けの「環境学習ガイド」 も掲載しています。

アダプト・プログラム活動や環境学習のご参考に、ぜひご利用いただければ幸いです。

食環協ホームページ http://www.kankyobika.or.jp/ まち美化キッズ http://www.kankyobika.or.jp/kids/index.html



パネルディスカッション

団体間の交流・接触・刺激が アダプト活動の可能性を引き出す

シンポジウムの最後に、東海大の河合孝仁(かわいたかよし)教授をコーディネーターに迎え、先進事例報告者4名の方々に当協会宮本部長が加わり、パネルディスカッションが行われました。

活動の風化、劣化の克服が共通の課題となる中、義務的感覚を払拭し、人々への問いかけ方を工夫すれば、わくわく感のある楽しい、主体性のある活動は十分に期待出来るはず、潜在的な活動参加ニーズは大きいという認識が各パネラーから示されました。



また、行政、地域団体、NPO、企業等の各種団体が、アダプトの活動の中で、また意見交換会などの交流の場で、相互接触の機会を得ることにより、それぞれの強みと弱点を認識し、結果として活動の可能性が拡大すること、お互いに活動を見守る中で刺激を与え合うことが出来ること、予期せぬものを生み出す余地が活動の魅力を高めることなどもパネラーのみなさんの共通認識でした。

アダプト・プログラムという名のもとで実際に展開されている活動は、行政と連携した清掃美化活動という基本的な共通点はあるものの、様々な主体が、様々な目的意識を持って、様々な成果を生み出している活動です。アダプト・プログラムが実は千差万別であり、多様性に充ち充ちた活動であることが、これまで積み重ねられてきたシンポジウムで明らかにされてきたのでした。パネルディスカッションの最後に、パネラーか

ら当協会への希望、期待を語ってもらう機会がありましたが、パネラーの方々のお話を総括すれば、このアダプト・プログラムが千差万別であること、多様性に充ち充ちている実態、そこ



で生じる様々な課題と課題克服のためのいろいろな取り組み、これらの情報を全国から収集し、全国に情報提供していくこと、それがアダプト・プログラムの内容豊かな発展のために果たすべき当協会の役割であるということであったと考えられます。

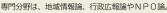
(文責:食環協 田中)



東海大学 文学部広報メディア学科教授 **河井 孝仁 氏**

【プロフィール】

名古屋大学法学部卒業。その後静岡大学大学院を経て、名古屋大学大学院で情報科学の博士号を取得し、現在 東海大学 文学部広報メディア学科教授。



現在、インターネットを活用した地域活性化や、NPOと企業の協働についての実践及 び研究に取組む。

「シティプロモーション 地域の魅力を削るしごと」「地域メディアが地域を変える」など著書多数。

静岡県職員も経験し、現在は総務省地域情報化アドバイザー、地磐田市の協働まちづく り推進委員会委員長など、幅広い視点から支援を行っている。

編集後記

食環協ニュース118号をお届けします。

本ニュースは、アダプト・プログラム・シンポジウム、環境美化教育優良校等表彰など当協会 の主要な事業を実施した際に発行し、関係の皆様にお知らせしております。

なお、シンポジウムの基調講演、事例発表、パネルディスカッションの詳細は当協会のホームページ(http://www.kankyobika.or.jp)に後日掲載します。

今後とも当協会の事業推進にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。